

## 平成 30 年度 小体研 体育的活動部会② 部会記録

### I 担当常任理事 挨拶

江戸川区立平井小学校 校長 山下 靖雄 先生

○体育的活動部会の目指すところ：

遊びを通して、様々な運動を経験する機会を与える。→運動好きになる。→結果的に体力向上

### II 自己紹介

(省略)

### III 昨年度までの研究と今年度の研究について（研究発表のスライドより）

○体育的活動部会の研究の根拠

→・学習指導要領 総則 教育課程編成の原則

「3 学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」という記載がもとになっている。

体育の授業時間以外の活動について研究を行っている。

○体力の定義には、「身体的」なものと「精神的」なものがある。

・体育的活動で研究する運動遊びでは、精神的な体力も養うことができる。

○スキヤモンの発達曲線

・神経系がもっとも発達するゴールデンエイジの時期に、運動遊びを通して様々な体の動きを経験することで、運動能力の伸びにつながる。

### IV 質疑応答

**Q 1 休み時間に、場所を 6 か所つくり、運動遊びを行う。子どもが強い興味をもつ遊びはどんなものがあるか？（低・中学年向けで。クラス遊び。校庭のみ使用。）**

A ・長縄 一本 → 八の字跳び、跳びながらジャンケン（勝ち抜け）  
三本 → （三角形の辺にして）一度に回し、跳ぶ人が三角形の辺を移動していく。  
・天大中小 ・ぐるぐるリレー ・激流下り  
・ドッチビー、ドッチビーろくむし

(※遊びの内容は、体育的活動部会作成の遊び集を参照)

**Q 2 児童が、運動遊びの時間以外にも自分たちで運動遊びをするようになるためには？**

A 子どもが自然と遊ぶ環境作りが大切。

例 ・ろくぼくを 3 色程度に色分けし、同じ色のみを使って登る遊びができるようにする。

(色によって本数を変えると、少ない方が難易度が増す。)

- ・校内のコンクリートのところにケンパーの輪をペンキでかく。
- ・休み時間、校庭に子どもたちがラインを引けるよう、ライン引き用のじょうろを用意しておく。
- ・遊びのコート等がすぐ作れるよう、校庭に印をうめる。

### Q3 運動遊びの時間に楽しめない子どもがいる。どうしたらよい？

- A
- ・その遊びが児童の実態に合わない可能性がある。→遊びの再検討を。
  - ・遊びの場所がせまいことが原因のことがある。→低中高など、学年ごとの活動にする。

### Q4 短縄の扱いはどうなっているか？

- A
- 二人跳びで様々な跳び方に挑戦したり、短縄の本数を増やしたりと、技の習得ではなく、いろいろな跳び方に挑戦して遊ぶ。(多様な動きをつくる運動遊びに似た内容。)

### Q5 全校に休み時間の遊びを広めるためには？

- A
- ・体育朝会でしたことを普段の遊びにつなげる。  
→遊びカードで遊びを紹介。できたら、担任から
  - ・特活の取り組みで運動遊びを行う。  
→まずは子どもを(運動を楽しむように)変えること。自分の学級から。  
そして誘いやすい先生に声をかけ、休み時間に外で子どもたちと遊ぶようにする。

## 運動遊びについて

- ・ルールが簡単で、特に技能が要らず、今持っている力で十分に楽しめるものでなければいけない。
- ・やらなければいけない× → (子どもが自ら) やりたい! でなければいけない。  
遊びだからといって全員が楽しめるわけではない。  
ただ、経験を積むことで「これ、やりたい」「楽しい」と変容が見られたら、それを認めて価値付けてあげるとよい。
- ・児童自ら、遊びの工夫をし始めるために、例えば「外遊び 道具なし週間」を設けるのは面白いかもしれない。また、運動遊びカードを教室に置き、子どもがその中から遊びを選んで遊べるようにする工夫もよい。(教師と一緒に遊べれば最高。)

## V 担当常任理事 挨拶

江戸川区立平井小学校 校長 山下 靖雄 先生

- ・体育学習と体育的活動は、両輪である。相互に関連し合って、三つの資質・能力を確実に身に付けさせ、体育・運動好きな子供を育てていきたい。

文責 江戸川区立平井小学校 教諭 遠山 信愛義